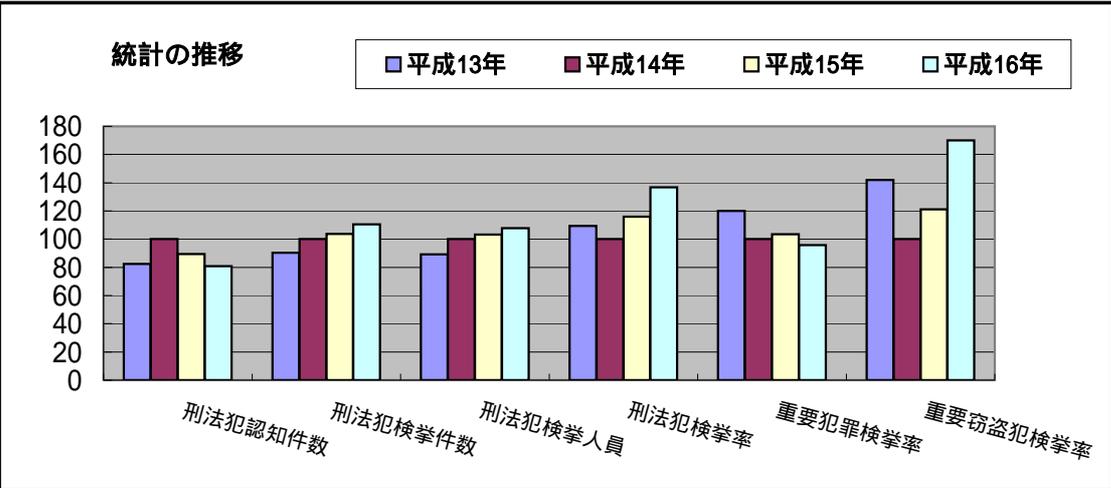


業務名 犯罪捜査活動の推進

業務に関する統計

項目	統計の推移				
	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	単位
刑法犯認知件数	39,246	47,600	42,587	38,455	件
刑法犯検挙件数	7,280	8,057	8,361	8,896	件
刑法犯検挙人員	3,754	4,203	4,338	4,529	人
刑法犯検挙率	18.5	16.9	19.6	23.1	%
重要犯罪検挙率	55.3	46.1	47.7	44.2	%
重要窃盗犯検挙率	27.4	19.3	23.4	32.8	%

1「重要犯罪」とは、殺人・強盗・放火・強姦・略取誘拐・強制わいせつをいう。
 2「重要窃盗犯」とは、侵入盗・自動車盗・ひったくり・すりをいう。



<グラフは、平成14年を100とする指数で表した。>

業務の主なコスト

	事業名	平成16年度事業費(千円)	平成17年度事業費(千円)
1	刑事警察費	32,186	44,470
2	刑事警察活動推進費	2,441	2,444
3	広域重要事件対策費	51,457	40,919
4	広域環境犯罪スーパープロテクト事業費	15,021	22,005
5	鑑識警察費	23,578	977
6	鑑識活動推進費	750	67,884
7	科学捜査活動推進費	55,007	7,603
8	写真中央処理器整備費	7,603	24,084
9	科学捜査器材等整備費	21,997	35,103
10	地域安全総合対策緊急事業費		8,798
	合計	210,040	254,287

平成16年の取組み

刑法犯認知件数は、平成14年に戦後最多を記録したが、2年連続で減少し、平成16年は2年振りに4万件を下回った。一方、検挙件数、検挙人員は前年を上回り、検挙率は前年を3.5ポイント上回る結果となった。

重要犯罪の捜査においては、関係府県との早期の情報交換を行い、共（合）同捜査を推進するなどして、首都圏の中国人等のグループによる強盗致死事件や強盗殺人死体遺棄事件等を検挙したほか、初動捜査及び聞き込み捜査等、基礎捜査を徹底するなどして殺人事件、強盗事件、略取事件等を検挙した。

重要窃盗犯の捜査においては、組織窃盗犯罪対策と窃盗常習者対策を両輪で推進し、他府県警察との合同捜査により、チェーン店形式の大型薬局等を対象とした広域金庫破り・事務所荒し等の事件を検挙したほか、窃盗常習者による広域出店荒し及び空き巣事件等を検挙した。

知能犯捜査においては、長期間に及ぶ緻密な捜査活動により、商工共済組合元理事長らによる多額背任事件を検挙したほか、急増する「振り込め詐欺」の捜査を徹底し、首都圏在住の少年らのグループによるいわゆる「オレオレ詐欺」、「架空請求詐欺」事件等を検挙した。

悪質・重要犯罪等に対応するため、科学捜査研究所の職員による研修会を定期的で開催して、鑑識課員のレベルアップを図った。また似顔絵作成のスペシャリストを育成するため、定期的に似顔絵研修会を開催するとともに、積極的な活用によって強盗事件等の解決に貢献した。

鑑定活動に当たっては、複雑多様化する犯罪に対応するため、鑑定職員を各種学会、研修会や民間企業に派遣して先進技術の習得に努めるとともに、鑑定資機材の整備充実を図るなど、科学捜査力の向上に努めた。

課題を踏まえた平成17年の取組み

刑法犯検挙率は前年を上回ったものの、全国平均を3.0ポイント下回っていることから、装備資器材の充実と有効活用を図るとともに、業務の合理化、効率化により、現場警察力の一層の強化に努める。

平成16年中の重要犯罪認知件数は278件と前年より5件減少しているものの、殺人、強盗、強制わいせつ等は増加していることから、事件認知時における迅速的確な初動捜査を実施するとともに、必要により共（合）同捜査の積極的な推進、現場捜査の徹底等により検挙向上に努める。

平成16年中の重要窃盗犯の認知件数は5,949件と前年より715件減少しているものの、侵入窃盗犯のうち事務所荒し、金庫破り等が増加しており、依然として組織窃盗グループ及び常習窃盗者による犯行が多発している傾向にあることから、徹底した基礎捜査及び他府県との情報交換等を行い、重要窃盗犯の検挙向上に努める。

県民に多大な被害と不安を与える「振り込め詐欺」事件に対する捜査を強化するとともに、依然として後を絶たない政治・行政とカネをめぐる不正の追及を徹底し、その摘発・検挙を推進する。

津港開港に伴う利用客を狙った路上強盗、ひったくりや車上ねらい等の街頭犯罪、来日外国人による犯罪等の発生が懸念されることから、津港周辺における犯罪の抑止・検挙に努める。

鑑識技術・資機材を効果的に活用した緻密な現場鑑識活動を実施し、各種資料の採取に努めるとともに、鑑識システムを活用した迅速な鑑定を実施して、重要犯罪、重要窃盗犯等の早期事件解決を図る。

複雑、多岐にわたる事件の鑑定に対応するため、各種研修会等への積極的な参加により鑑定技術、知識の向上を図るとともに、鑑定資機材の整備を行うなど科学捜査力の向上に努める。